



年 組 名前

道新 ワークシート

プラ資源循環促進法 どう思う？



スプーンやストローなど、使い捨てプラスチック製品12品目の使用削減を企業に義務付ける「プラスチック資源循環促進法」が4月に施行されました。道内の宿泊施設やコンビニエンスストアなどでも、提供方法を見直す動きが広がっています。一方で、事業者からはサービス低下につながる懸念の声も上がっています。あなたは同法をどう考えますか？

◇ 12品目は、カミソリや歯ブラシ、ハンガー、衣類用カバーなど。前年度に、12品目を5つ以上提供したコ

ンビニエンスストアや飲食店、ホテルなどに、削減を義務付ける。読者モニターに聞いたところ、「賛成」「どちらか」というと賛成」を合わせた賛成派は66%で、「反対」「どちらか」というと反対」の反対派18%を大きく上回った。「どちらでもない(わからない)」は17%。

年代別で見ると、29歳以下では賛成派が41%にとどまり、反対派の38%と3%の差だった。他の年代は賛成派がすべて60%以上を占めた。賛成派は年代が上がるにつれて増える傾向があり、最も多い60歳以上では81%に上った。職業別で賛成派が最も多かったのは、

商工自営・自由業で、82%だった。賛成派の理由は、「環境保護のためには必要」(札幌市の37歳男性)といった意見が多く見られた。胆振・日高管内の54歳男性は「ペットボトル飲料の販売が広く浸透していることに触れて、「もっと早く規制されるべきだと思った」との声を寄せた。

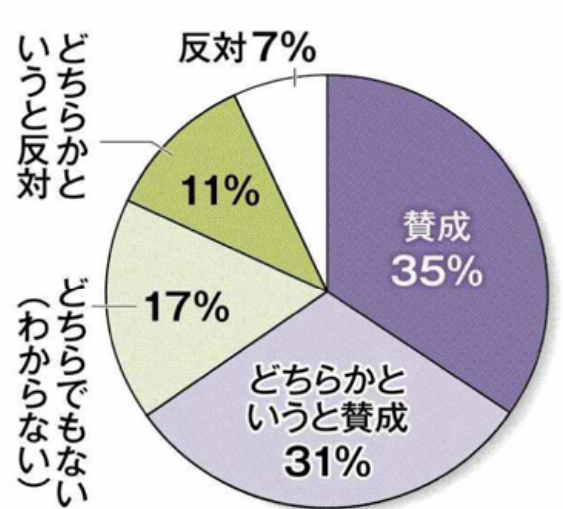
石狩管内の70歳女性は海の中にある大量のプラスチックゴミに関するニュースを目にする度に危機感を覚えるといい、「やれることから始めなくてはいけない。私は買い物袋を持参しています」とした。同63歳男性は「工夫次第で何とでもな

る。(プラ製品の配布は)消費者への過剰サービスだ」。12品目のプラ製品を製造・販売する業者への影響を懸念する声もあり、札幌市の64歳女性は「プラ製品を「有料で配布(提供)してはどうか」と提案した。

賛成派の中にも胆振・日高管内の47歳女性は「削減の取り組みは必要だが、なぜこの12品目なのか」といった疑問の声もあった。反対派からは、制度の実

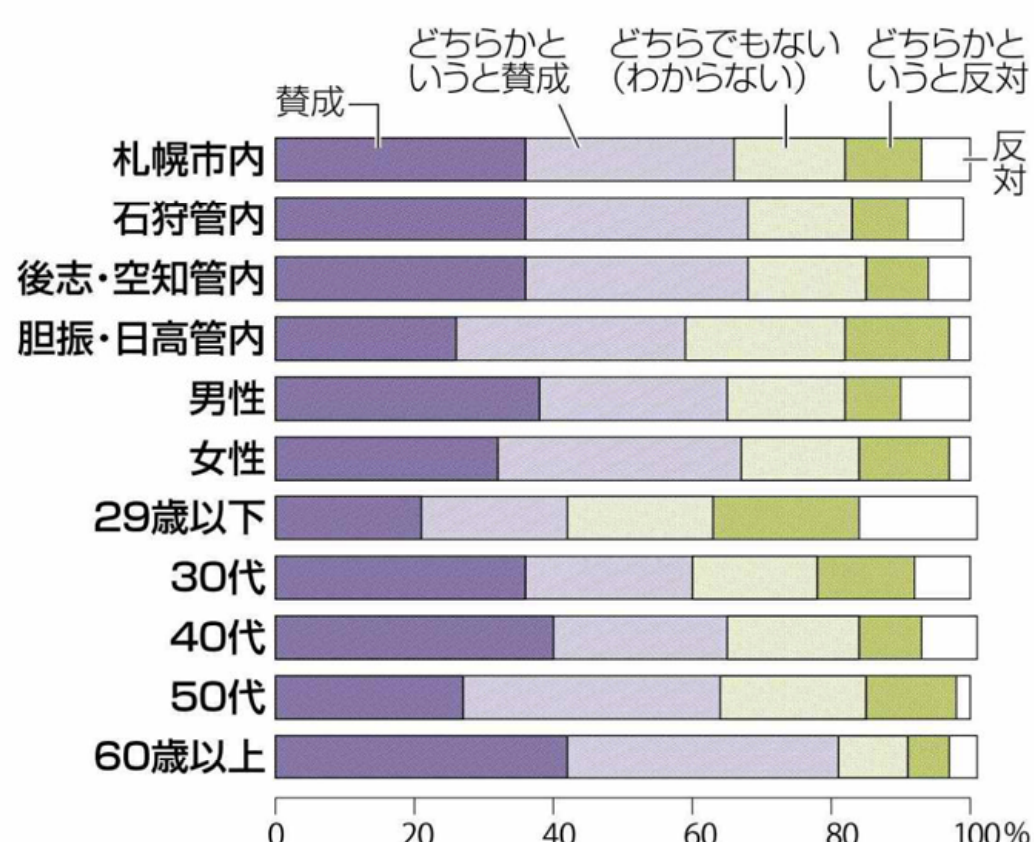
効性などに疑問の声が上がった。札幌市の26歳女性は「こんなことをやって本当に削減されるのか」、同28歳男性は「どの程度、環境に貢献できているのかわからない」とした。後志・空知管内の60歳女性は「もっと大きな削減ができることが企業や国レベルにあると思う」と回答した。

(尾崎良)



◇調査方法 北海道新聞HotMedia(ホットメディア)が管理・運営する「Doshinネット」を通じて3月23~27日、石狩、後志、空知、胆振、日高各管内の読者モニター男女546人に質問。466人(男性236人、女性230人)から回答を得た。回答率85.3%。

😊 賛成
環境保護のために必要



※数値は小数点以下を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある

😞 反対
本当に削減されるのか



年 組 名前

道新ワークシート

①スプーンやストローなど、使い捨（す）てプラスチック製品（せいひん）12品目の使用削減（さくげん）を企業（きぎょう）に義務付（ぎむづ）けた法律は何といますか？

②あなたは、両方の意見を読んで、賛成（さんせい）と反対のどちらの考えですか。また、その理由を書きましょう。

賛成（さんせい）・反対：

理由：

③スプーンやストローなど使い捨（す）てのプラスチック製品（せいひん）を減（へ）らすために、あなたができることは何ですか。